

船舶事故調査報告書

平成28年5月19日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成27年4月18日 10時21分ごろ～19時00分ごろの間）
発生場所	不明（沖縄県渡嘉敷村クエフ島南方沖～沖縄県北谷町西岸の間）
事故の概要	プレジャーボートしいーさあーは、無人で発見され、船長が行方不明となった。
事故調査の経過	平成27年4月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が行方不明のため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート しいーさあー、2.3トン 296-24580 沖縄、個人所有 6.43m (Lr) × 2.23m × 0.98m、FRP ディーゼル機関、62.5kW、平成22年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成元年9月6日 免許証交付日 平成25年10月21日 (平成31年9月5日まで有効)
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	船首部に擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南東、風速 約5～6m/s、視界 良好 海象：波高 約0.9～1.1m、水温 約24℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、宜野湾市所在のマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）を出発した。 北谷町西岸で釣りをしていた人は、平成27年4月18日19時00分ごろ、本船が北谷町西岸に設置された消波ブロックに衝突するところを目撃し、警察に本事故の発生を通報した。 本船は、移乗した本件マリーナの担当者によって最寄りのマリーナに回航された。 船長は、海上保安庁のヘリコプター及び巡視艇による捜索が行われ

	<p>たが、発見されず、行方不明となった。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>海上保安庁の情報によれば、本船は、発見時、無人であり、主機が運転状態でクラッチが前進位置にあり、自動操舵の状態であったが、船体に他船と衝突したような痕跡は認められず、船長が所持していた携帯電話、ズボン、財布等が船内に残されていた。</p> <p>本件マリーナの担当者は、本船に移乗した際、本船の操舵室右舷側外壁に取り付けられたさお立てに釣りざお1本が差し込まれ、釣り糸を引いている状態だったので、トローリングをしていたのではないかと思った。</p> <p>本件マリーナの担当者は、本船のGPSプロッターの画面で、本件マリーナを出港して西南西進し、クエフ島南方沖で反転した後、東北東進して北谷町西岸に至る航跡を確認した。</p> <p>本件マリーナの担当者は、船長の車の中に平成27年4月18日10時21分が印字された本件マリーナの駐車券を見つけた。</p> <p>本件マリーナの担当者によれば、船長は、ふだんから1人で釣りに出掛けていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、本件マリーナを10時21分ごろ以降に出発した後、クエフ島南方沖で反転して自動操舵で東北東進し、19時00分ごろ無人で北谷町西岸の消波ブロックに衝突したところを目撃されたことから、クエフ島南方沖から北谷町西岸までの間において、船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、クエフ島南方沖から東北東進中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防水型携帯電話を常に身に付け、落水した際の連絡手段を確保しておくことが望ましい。

付図1 事故発生経過概略図

